

## OSAKA INITIATIVES 2009

### 【問題提起】

#### ◇真の産業競争力とは

産業が真の国際競争力を持つためには、立ち上げ期からトップに立つまでの推進力だけでなく、劣勢から巻き返し、再びトップを奪還する力が重要である。そのためには個々の企業のみならず産学連携をコアとした協働が必要である。

#### ◇都市機能を活かしたネットワーク拠点の形成

連携・協働を促進するためには、研究者や企業人が地理的に集まりやすく市民の生活・就業のステージにも近接した都心立地において、様々な都市機能も有効に活用した“ネットワーク拠点”の形成が必要である。

大阪については、集積を促す魅力を生み出すために産学官が連携し、固有の都市ブランドを醸成し、普及につとめるべきである。

#### ◇市場志向の産学連携モデルを構築すべきである

産業を活性化し競争力を向上させ、イノベーションを起こしていくためには、持続的に市場を誘引し得るような価値の創出が必須であり、産学連携によるビジネス創出活動においても市場の意向や反応を知る工夫が必要で、生活者を巻き込んだ協働モデルの構築が必要である。

### 【提言】

#### ◆“A B C D E F G”の有機的な連携による「グローバル・アライアンス」拠点の形成を！

- ・Academy（大学・研究機関）／ Business（企業）／ Consumer（生活者市民）／ Developer（開発事業者）／ Employee（就業者市民）／ Finance（金融機関）／ Government（行政・自治体）などが緊密で、柔軟な連携を組み、各々の機能をより一層高めることで、**新しい市場を創造する。**
- ・そのためには、拠点施設（ハード）の整備や参画者（ソフト）の集積・誘致を進めるだけでなく、有機的連携を促進するための「仕掛け」や「場の設定」といった“橋渡し機能”が必要である。